

第1～2回 富士見台ミーティング

これまでの検討成果から整理

検討テーマ

- ①だれもが住み続けられるまちづくり
- ②まちのにぎわいづくり
- ③様々な世代にとって心地よい居場所づくり
- ④歩きたくなるまちのつくり方・使い方の工夫

①～④の4つのテーマごとに意見交換

テーマ実現における

大切な考え方

考え方に基づく

取組みの方向性

方向性に基づく

取組みアイデア

[ポイント]

各テーマに共通するご意見が多く出されました

例

- ①顔見知りができる身近な居場所を増やす
- ②既にある居場所を積極広報する
- ③施設に限らずいろんな場所を居場所活用する
- ④まちなかで憩える居場所を作る

第3回 富士見台ミーティング

市民にとって大切な場所の把握と価値を評価

場所の価値の評価

継承したい場所が多く出されました

整備方針／たたき台

整備方針

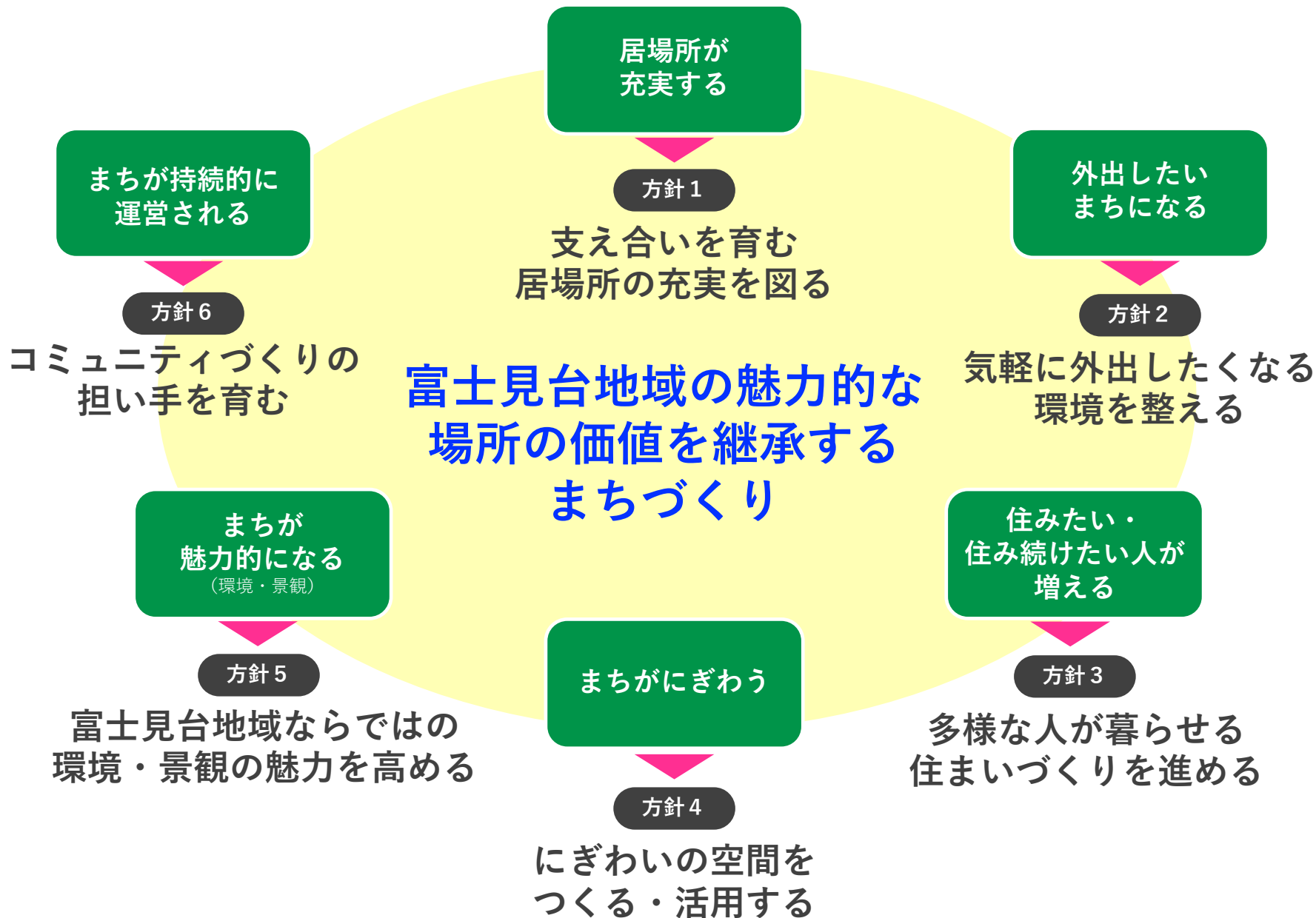
- ①支え合いを育む居場所の充実を図る
- ②気軽に外出したくなる環境を整える
- ③多様な人が暮らせる住まいづくりを進める
- ④にぎわいの空間をつくる・活用する
- ⑤富士見台地域ならではの環境・景観の魅力を高める
- ⑥コミュニティづくりの担い手を育む

整備における
空間づくりの作法として活用

場所の価値マップ

- ①～⑥の方針に基づき、まちの整備を検討する際に、富士見台地域の空間づくりの作法として活用する

整備方針の考え方①



整備方針の考え方②

整備方針（たたき台）は、富士見台地域の魅力的な場所の**価値を継承**し、それらをさらに**つなげて・ひろげる**まちづくりを進めるためのものです。

富士見台地域の魅力的な場所



その実現をめざす整備方針

下記の整備方針（たたき台）は、富士見台地域の魅力的な場所の価値を継承し、それらをさらにつなげて・ひろげるまちづくりを進めるためのものです。

整備方針（たたき台）

方針1 支え合いを育む居場所の充実を図る

①身近な居場所を多くの市民に活用してもらう

- 既存の居場所の運営のひと工夫を通じて更なる利用の促進を図る
- 既存の居場所の魅力や運営ノウハウを知り・学び、地域に広げる
- 様々な居場所を積極的に広報する
- 中高生から高齢者まで各世代が利用しやすい居場所の充実を図る

②既存の施設や店舗などの居場所機能の充実を図る

- 公共施設をコミュニティづくりの場として活用を促進を図る
- 団地を居場所として活用する
- お店と居場所スペースの提供協力を推進する

③屋外空間を居場所として活用する

- 道路や公園を居場所として活用する
- ベンチの設置など交流を生むまちなかの休憩スポットを増やす
- まちなかのどこでも居場所がつけれる工夫をする

④安心な生活を支える総合的な拠点をつくる

- 医療・福祉の総合的な拠点の整備を検討する

方針2 気軽に外出したくなる環境を整える

①外出時に休憩できるスポットを充実させる

- 気軽に立ち寄れる居場所を歩いていける範囲に確保する
- ベンチやカフェなど、まちなかで気軽に飲食や休憩ができるスポットを増やす
- 公園のトイレや休憩施設を使いやすくする

②まちなかを巡る歩行空間の魅力を高める

- さくら通りを中心に個性の違う各通りをつなぎ、歩いて回れる歩行ネットワークをつくる
- 健康づくりの視点で歩いてまわれる環境を充実する
- 多様な居場所を巡れるしかけでまちの回遊性を向上する
- 地域資源を回って巡りたくなるストーリーやテーマ設定と情報発信、サインの充実を図り、地域内資源ネットワークを形成する
- 公共交通や国立・谷保地域からの動線なども踏まえて、富士見台地域の回遊性のあり方を検討する

③だれもが気軽に外出できる移動の手段やしくみを整える

- 居場所への移動を支える環境を整える
- 自転車道のルールや交通マナー、交通安全の向上を図り、安全な歩行環境とする
- 公共交通やモビリティの拡充を検討する

方針3 多様な人が暮らせる住まいづくりを進める

①国立富士見台団地を核として地域の暮らしの魅力を高める

- 団地を核として富士見台地域のにぎわいを創出する
- 団地を若い世代や新たな居住者の住まいとして活用する
- 団地に住み続けられる環境を検討する
- 団地の行事を地域みんなで楽しめるしくみを検討する

②多様な住まい方が選択できるようにする

- 学生、高齢者、外国人、子育て世代などのニーズにあった住まいづくりを検討する
- シェアハウスなど、新たな住まい方のしくみを検討する
- 複数世帯が居住できる住宅を誘導する

方針4 にぎわいの空間をつくる・活用する

①公共施設の再編にあわせてにぎわい創出を検討する

- まちに開かれた公共施設のあり方を検討する
- 多機能集約型の拠点や公共施設によりにぎわいを創出する

②にぎわいを創出する公共空間の活用を進める

- 道路活用のイベントで楽しみごとをつくる
- 公園を積極的に活用して活動の見える化をすることで多世代が足を運び、にぎわいを創出する
- にぎわい創出するイベントの手段やしくみを工夫する

③商店街をにぎわいの場として多様な活用を進める

- 商業に限らず他の要素を取り入れ、商店街の魅力をさらに高める
- 商店街のお店を活用できるサービスや仕組みづくりを検討する
- 子ども・子育て世代・シニア世代と連携して商店街を元気にすることでにぎわいづくりにつなげる

④にぎわいを維持・誘導するエリアとルールを検討する

- 矢川駅・谷保駅と周辺地域が連動したにぎわいを誘導する
- 公園および公園周辺ににぎわいを誘導する
- 公園の特性にあわせた活用方法を工夫する
- さらに魅力的な公園の使い方をみんなで検討する
- にぎわいの適正な誘導を図るためのルールを検討する

方針5 富士見台地域ならではの環境・景観の魅力を高める

①みどりの連続性を感じる空間づくりを進める

- 団地の緑とオープンスペースを継承するために、市民みんなで楽しめる空間づくりや使い方を検討する
- 団地の豊かな緑と街路樹のつながりをつくる
- 富士見台地域の緑と谷保・多摩川・立川の緑を広域でネットワークさせる

②さくら通り沿道に魅力的なオープンスペースを確保する

- さくら通り沿道など道路沿道にくつろげるオープンな空間を誘導する
- さくら通りと公園の空間の一体性を高める

③富士見台地域の個性ある景観を生かす

- 地形の豊かな起伏など富士見台地域の個性を活かす
- 富士見台地域の街並みの魅力を高めるデザインに配慮する
- 地域をめぐる資源として農のある景観を活用する

方針6 コミュニティづくりの担い手を育む

①顔の見えるコミュニティづくりを大切にする

- 地域の見守り活動を推進する
- 災害をみんなで乗り越える活動や仕組みを充実させる

②市民が場の運営に主体的に関われる仕組みを検討する

- 居場所に多様な人が関われる運営の工夫をする
- 高齢者が活躍できる機会を充実する

③市民活動を応援するコーディネーターを育成する

- 高齢者が地域とつながる機会を増やす
- 地域のつなぎ役（コーディネーター）を育成する

④子どもたちが地域で多様な経験をする機会を増やす

- 子どもたちの地域参加の場を充実させる

①身近な居場所を多くの市民に活用してもらう

- 既存の居場所の運営のひと工夫を通じて更なる利用の促進を図る
- 既存の居場所の魅力や運営ノウハウを知り・学び、地域に広げる
- 様々な居場所を積極的に広報する
- 中高生から高齢者まで各世代が利用しやすい居場所の充実を図る



【こんなことができればいいな（ご意見をもとに）】

- ☐ まずは居場所訪問ツアーをやってみる
- ☐ 「行ってみようよ」と誘う機会をつくる
- ☐ 今ある居場所から学ぶ機会をつくる
- ☐ イベントの機会を活用して、広報する

②既存の施設や店舗などの居場所機能の充実を図る

- 公共施設をコミュニティづくりの場として活用の促進を図る
- 団地を居場所として活用する
- お店と居場所スペースの提供協力を推進する



- ☐ 公共施設に休憩や勉強をできる場所をつくる
- ☐ 団地の空き部屋を、子育て世代の居場所として活用する
- ☐ 団地の集会所を地域活動の場所としてみんなで活用する
- ☐ 休憩できるスペースやトイレを貸してくれるお店を見つけて「居場所マーク」をつけてもらう

③屋外空間を居場所として活用する

- 道路や公園を居場所として活用する
- ベンチの設置など交流を生むまちなかの休憩スポットを増やす
- まちなかのどこでも居場所がつけれる工夫をする



- ☐ どんな場所にどんな人が集まって、何をしているか調べてみる
- ☐ 座りたくなるおすすめベンチを探す
- ☐ 休憩やおしゃべりができる可動式のベンチで居場所づくりを試してみる

④安心な生活を支える総合的な拠点をつくる

- 医療・福祉の総合的な拠点の整備を検討する



- ☐ 子ども・しょうがいしゃ・高齢者などだれもが一緒に過ごせる総合的な拠点があるといい

①外出時に休憩できるスポットを充実させる

- 気軽に立ち寄れる居場所を歩いていける範囲に確保する
- ベンチやカフェなど、まちなかで気軽に飲食や休憩ができるスポットを増やす
- 公園のトイレや休憩施設を使いやすくする



【こんなことができたらいいな（ご意見をもとに）】

- 団地の広場の魅力を伝え、憩いのスポットとしてみんなに使ってもらう
- 飲食や休憩で人気のお店が、なぜ行きたくなるのか調べてみる
- 公共トイレを清潔で使いやすいものにする

②まちなかを巡る歩行空間の魅力を高める

- さくら通りを中心に個性の違う各通りをつなぎ、歩いて回れる歩行ネットワークをつくる
- 健康づくりの視点で歩いてまわれる環境を充実する
- 多様な居場所を巡れるしかけでまちの回遊性を向上する
- 地域資源を回って巡りたくなるストーリーやテーマ設定と情報発信、サインの充実を図り、地域内資源ネットワークを形成する
- 公共交通や国立・谷保地域からの動線なども踏まえて、富士見台地域の回遊性のあり方を検討する



- 歩く目的づくりとして、農産物販売者と協力したスタンプラリーや万歩計を使って健康ポイントを競い合うしくみをつくる
- 江戸街道の魅力を調べて伝える
- 地域資源や価値のわかる表示板を設置したり、マップを作成して、緑、樹木、花、名所をめぐりやすくする
- ドラマ撮影スポットをPRして聖地巡礼につなげる

③だれもが気軽に外出できる移動の手段やしぐみを整える

- 居場所への移動を支える環境を整える
- 自転車道のルールや交通マナー、交通安全の向上を図り、安全な歩行環境とする
- 公共交通やモビリティの拡充を検討する



- 自転車道のルールや自転車通行のマナーをわかりやすく市民に伝える方法を考える
- コミュニティバス、福祉有償移送サービス、シニアカー、電動アシスト自転車など多様な移動手段やサービスを整える

【こんなことができればいいな（ご意見をもとに）】

①国立富士見台団地を核として地域の暮らしの魅力を高める

- 団地を核として富士見台地域のにぎわいを創出する
- 団地を若い世代や新たな居住者の住まいとして活用する
- 団地に住み続けられる環境を検討する
- 団地の行事を地域みんなで楽しめるしくみを検討する



- ☐人が集まりたくなり、にぎわいをつくるような空き部屋の活用を考えたい
- ☐学生や働く世代が団地に住めるような仕組みを考えたい
- ☐今住んでいる方が住み続けられて、新たな居住者も入るような家賃を考えたい
- ☐高齢者の方が低い部屋へ住み替えができるようにしたい
- ☐地域住民の交流を図るため、多くの市民に団地の活動やお祭りに参加してもらう声かけをする
- ☐多世代が踊りに来なくなる盆踊りを工夫したい

②多様な住まい方が選択できるようにする

- 学生、高齢者、外国人、子育て世代などのニーズにあった住まいづくりを検討する
- シェアハウスなど、新たな住まい方のしくみを検討する
- 複数世帯が居住できる住宅を誘導する



- ☐若い人と高齢者、留学生などが一緒に住めるなど、シェアハウスの仕組みを考えたい
- ☐外国人居住者と「食」を通じた異文化交流ができるといい
- ☐2世帯住宅など、複数世帯が住む戸建住宅が増えるといい

① 公共施設の再編にあわせたにぎわい創出を検討する

- まちに開かれた公共施設のあり方を検討する
- 多機能集約型の拠点や公共施設によりにぎわいを創出する

【こんなことができたらいいな（ご意見をもとに）】

- 公民館・図書館・カフェなど、いくつかの機能が複合した施設で多様な人が集まる場になると良い
- 公共施設にオープンなカフェが併設されると良い

② にぎわいを創出する公共空間の活用を進める

- 道路活用のイベントで楽しみごとをつくる
- 公園を積極的に活用して活動の見える化をすることで多世代が足を運び、にぎわいを創出する
- にぎわい創出するイベントの手段やしぐみを工夫する

- 道路や公園がどのように使われているか見に行ったり、他地域の事例を調べる
- 道路を歩行者天国にして、複数のイベントを一緒にやる機会をつくりたい
- ワクワクできる公園がどうしたらできるか、みんなで考える機会をつくりたい
- 公園を活用して、お店紹介、活動紹介、交流など、地域情報を紹介するようなイベントがしたい

③ 商店街をにぎわいの場として多様な活用を進める

- 商業に限らず他の要素を取り入れ、商店街の魅力をさらに高める
- 商店街のお店を活用できるサービスや仕組みづくりを検討する
- 子ども・子育て世代・シニア世代と連携して商店街を元気にすることでにぎわいづくりにつなげる

- 面白い取り組みをしているお店の方に話を聞きに行く
- シニアが小商いできるスペースがあるといい
- 空き店舗や空き地を活用して若者がアートに専念できるスペースがあると良い
- 定休日にチャレンジショップができるようなしぐみができるとうい
- 商店街による宅配サービスが充実すると嬉しい
- 大人対象と子ども対象のイベントを組み合わせる
- 子どもたちが1日店長をやるイベントができたらいいな

④ にぎわいを維持・誘導するエリアとルールを検討する

- 矢川駅・谷保駅と周辺地域が連動したにぎわいを誘導する
- 公園および公園周辺ににぎわいを誘導する
- 公園の特性にあわせた活用方法を工夫する
- さらに魅力的な公園の使い方をみんなで検討する
- にぎわいの適正な誘導を図るためのルールを検討する

- 駅周辺のにぎわいを維持するために土地利用のルールがあると良い
- 公園へのオープンカフェの併設や周辺店舗と協力して、さらに豊かな場所にしたい
- 公園の中で個人やグループで出店できる日をつくる
- まちづくりに合わせて、用途地域等、都市計画のルールのあり方を検討したい

①みどりの連続性を感じる空間づくりを進める

- 団地の緑とオープンスペースを継承するために、市民みんなで楽しめる空間づくりや使い方を検討する
- 団地の豊かな緑と街路樹のつながりをつくる
- 富士見台地域の緑と谷保・多摩川・立川の緑を広域でネットワークさせる



【こんなことができればいいな（ご意見をもとに）】

- 通りの街路樹や富士見台団地の緑を大切にして連続するようにつなげる
- 鳥、セミの声を子どもたちが楽しめるように、団地の緑を大切にする
- 団地の豊かな緑を地域の大切な散策路としてみんなの宝にしたい
- 富士見台地域の緑を拠点として、谷保・多摩川や立川の緑地等を結び「バードライン」としてつながりをつくる

②さくら通り沿道に魅力的なオープンスペースを確保する

- さくら通り沿道など道路沿道にくつろげるオープンな空間を誘導する
- さくら通りと公園の空間の一体性を高める



- さくら通りの沿道にすでにある魅力的な空間やシーンを見に行ってみる
- さくら通りの沿道に、ゆっくり一休みできるオープンカフェが増えると良い
- さくら通りの沿道にある公園がさらに歩道側に開かれた空間になると魅力が高まる

③富士見台地域の個性ある景観を生かす

- 地形の豊かな起伏など富士見台地域の個性を活かす
- 富士見台地域の街並みの魅力を高めるデザインに配慮する
- 地域をめぐる資源として農のある景観を活用する



- 地形が豊かなスポットを調べてマップにしたい
- 好きなデザインや空間になっている建物や道路を参考にして整備を考える
- 「農産物販売所めぐり」マップをつくり、購入した農産物でつくった料理をSNSで発信したい
- 農地をめぐるツアーがやれると良い

【こんなことができればいいな（ご意見をもとに）】

①顔の見えるコミュニティづくりを大切にする

- 地域の見守り活動を推進する
- 災害をみんなで乗り越える活動や仕組みを充実させる



- ☐すでに行われている地域活動を見学してみる
- ☐ご近所など小さな顔の見える単位で助け合いのしくみを考えたい
- ☐子ども食堂、地域食堂など「食」を通じたコミュニティづくりをやってみる
- ☐わんちゃんお散歩コミュニティなど、共通の趣味からつながりを発展させる

②市民が場の運営に主体的に関われる仕組みを検討する

- 居場所に多様な人が関われる運営の工夫をする
- 高齢者が活躍できる機会を充実する



- ☐居場所の運営を体験できる機会があると良い
- ☐地域活動の一覧マップを作成したい
- ☐新しく住み始めた人が地域を知るまちあるきなど、地域の場所や人をつなげる機会がつけられると良い
- ☐仕事を定年した人が、地域の活動や場の運営に関わることができるきっかけとなることを考えたい

③市民活動を応援するコーディネーターを育成する

- 高齢者が地域とつながる機会を増やす
- 地域のつなぎ役（コーディネーター）を育成する



- ☐高齢者が孤立しないように、ラジオ体操や太極拳など気軽に参加できるような機会を増やす
- ☐地域の活動や人をつなぐ地域コーディネーターがいると良い

④子どもたちが地域で多様な経験をする機会を増やす

- 子どもたちの地域参加の場を充実させる



- ☐地域の活動や居場所に子どもたちも参加したり、気軽に関われる機会を増やしたい